

## コロナワクチン実用化までに投資された米国の公的資金はいくら？

11/19 日刊ゲンダイ



【役に立つオモシロ医学論文】

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、予防医療における大きな成功のひとつは、同ウイルスに対する mRNA ワクチンの開発と実用化だったといえるでしょう。

実際、ワクチンが実用化された初年度

だけでも、米国において 110 万人の死亡が回避されたと見積もられています。

mRNA ワクチンの実用化は、長年にわたる科学的な創意工夫とバイオテクノロジーの進歩、そして多額の財政支援があったからこそ達成できたものです。米国政府は、mRNA ワクチンの有効性が実証される以前から数億接種分のワクチンについて事前購入を保証したことは記憶に新しいと思います。

そんな mRNA ワクチンの基礎的な研究から実用化に至るまで、米国政府が公的な資金をどれだけ投資してきたかを調査した研究論文が、2023 年 3 月 1 日付で英国医師会誌に掲載されました。

この研究では、米国国立衛生研究所の資金提供に関するデータや、これまでに実施された研究の成果を収載した資料を基に米国政府が mRNA ワクチンの開発に投じた資金額を見積もっています。

1985 年 1 月から 2022 年 3 月までの投資額を調査した結果、mRNA ワクチンの実用化に至るまでに投じられた資金額は 319 億ドル (約 4 兆 3400 億円) でした。このうち、新型コロナウイルスのパンデミック前に投資された資金額は 3 億 3700 万ドルだった一方で、パンデミック後には、ワクチンの購入に 292 億ドルを、臨床試験の財政支援に 22 億ドルを、他の基礎的研究などの支援に 1 億 800 万ドルを費やしていました。

論文著者らは「319 億ドルの財政支援は数百万人の命を救うことにつながり、他の疾病の予防にも対応できる可能性を秘めたワクチン開発技術に必要不可欠だった」と結論しています。(青島周一／勤務薬剤師／「薬剤師のジャーナルクラブ」共同主宰)

## 京大チームの「コロナワクチンで死者9割以上減」推計を評価「35万人の命を救った」

11/17(金)よろず

2ちゃんねる創設者で実業家のひろゆき(西村博之氏)が17日までにX(旧ツイッター)を更新。新型コロナウイルスワクチンの接種によって、国内の2021年2-11月の感染者と死者をいずれも90%以上減らせたとの推計結果を京都大・西浦博教授(理論疫学)らのチームがまとめたという報道を受け、自身の見解をつづった。

西浦教授らのチームによると、この期間の実際の感染者は約470万人と推計されており、死者は約1万人だったが、ワクチンがなければ、それぞれ約6330万人と約36万人に達したおそれがあったという。研究成果は10月18日付の英科学誌サイエンティフィックリポートに掲載された。

ひろゆき氏は16日付のX投稿で「コロナワクチンで死者9割以上減 京大チームが推計」として同ニュースを紹介し、「コロナワクチン接種のために自衛隊を動員したり、かなり無茶をしましたが、結果として35万人の命を救った事になります」と、死者が約36万人となっていた可能性を約1万人に抑えた意義を強調。さらに「当時の菅首相と河野大臣は、評価されてもいいと思う」とつづった。

国内で21年2月から始まったワクチン接種に、どの程度の効果があったのかは十分検証されていないが、今回の推計では「接種のペースが実際よりも14日間早ければ感染者と死者を半分程度に抑えられ、14日間遅かったら感染者は2倍以上、死者数は約1.5倍になっていた」との結果も報告されている。

